

地域のたすけあい 人材育成講座を開催

「私にも出来ることが見つかった！」

自分たちが必要とするサービスやものを自分たちで生み出すワーカーズ・コレクティブでは、高齢化が進む中、安心できる地域づくりにも取り組んでいます。今年度は、地域のたすけあいの輪を広げるために、10/23～11/27まで3回の講座を行い、延べ33名が参加しました。

1回目は、たすけあう仕組みづくりを考え「こんな地域に暮らしたい」というテーマで意見交換をしました。2回目は、白石区の「たすけあいワーカーズむく」で、実際の活動を見学。3回目は「地域支援のあり方」の講義、「地域の居場所」づくりのグループワーク、実際のたすけあいワーカーズ立ち上げの話をしました。

参加者の感想には「漠然と何かをやってみようと思って



2回目の講座では「地域サロンむく」に参加し、利用者の方と一緒に歌声ボランティアを楽しみました

いたが、実現させる方法を考えるのが楽しかった」など、解散するのが惜しい雰囲気でした。自分のできる事は何か、仲間と地域を豊かにしていきたいという思いを持った人たちがたくさん集まりました。次はあなたも、どうぞ受講して下さい。

ワーカーズのための共済で、突然のケガや病気に備えよう

連協ではケガや病気に備え安心して働けるよう、ワーカーズ共済への加入をすすめています。11月は共済会議への参加と、会員全体研修で健康管理のための講習会を行いました。

●ワーカーズ共済を広げよう！— 共済会議 — (11/8 神奈川県)



第1回ワーカーズ・コレクティブ (W.Co) 共済事務委託組織交流会議が開催され、北海道からは事務局2名が参加しました。W.Co共済(株)は2011年に設立され、北海道では現在14団体157名が加入しています。当日は事例紹介や意見交換が行われ、ワーカーズとして働き続けるための傷害・休業保障が充実した共済を広げていく必要性を実感しました。(報告 橋村)

●リンパケアで肩こりすっきり！

— 会員全体研修 — (11/29 札幌市中島体育センター)

2014年度から、連協はW.Co共済から事務委託を受け、会員の健康に関する支援も行うことになりました。その一環として今年度の会員全体研修は、「リンパケア」講習会を開催し、肩こり・手足の冷えなどを改善する方法を学びました。当日は78名が参加し、「体が軽くなった」などの声が聞かれました。



ワーカーズのわかばせん

情報の共有！



働こうかな... 働く仲間 募集中
と迷ったら、ぜひ相談を！

各ワーカーズでは、一緒に働く仲間を募集しています。気軽にお問い合わせください。



(N) 北海道ワーカーズ・コレクティブ連絡協議会
☎ 011-596-0650
HPに団体の一覧を掲載しています。

正解者の中から抽選で5名様に、「ワーカーズカフェ」のドリンク券をペアでプレゼント！
プレゼント付きクイズ

問題 FMラジオカロスサッポロで、子育て支援ワーカーズが放送している番組は「●●●つきましょ」。さて、●●●に入る言葉は？

- ①ため息 ②おもち ③ひと息 (ヒントはP2-3)

応募方法

名前・住所・電話番号・クイズの答え・ワーカーズの方は所属名を北海道ワーカーズ・コレクティブ連絡協議会まで送ってください。締め切りは1月末日。答えは次号とHPで発表します。

宛先 FAX 011-596-0651
メール wco28@athena.ocn.ne.jp

ワーカーズカフェの住所や連絡先はチケットに掲載しています。
※前号の答え：②火曜日

北海道ワーカーズ・コレクティブ連絡協議会は1986年に設立。32団体約500名が加入しています。

業種	団体数
食	6
福祉	11
子育て支援	10
業務請負	3
リサイクルと環境雑貨の店	1
企画・編集	1

■発行 / 特定非営利活動法人 北海道ワーカーズ・コレクティブ連絡協議会
〒060-0052 札幌市中央区南2条東1丁目1-13 南2条ビル201号室
☎ 011-596-0650 FAX 011-596-0651

URL <http://www2.ocn.ne.jp/~wco28/>
Email wco28@athena.ocn.ne.jp

■発行責任 / 嶋 明美 編集責任 / 理事会 制作 / ブランズEPO

■年4回発行 年間購読料 / 1000円

No. 36
2015. 1
年4回発行

Wish ウイッシュ

あなたの思いを形に

特集 子育てで困った時は私たちワーカーズにまかせて！

ワーカーズ ひと・人 子どもたちの成長を 家族のように見守っています

(N) 子育て支援ワーカーズ「ともに」は、「親も子も友に会い、共に育つ」という理念を掲げ、北海道大学構内にある保育所で、就学前の乳幼児を受け入れています。代表の元木直美さんに、保育への思いや運営についてお話を聞きました。

働き方に魅力を感じて

札幌の市立保育園で働いていましたが、長男の小学校入学を機に退職し、生活クラブ生協の委員などをしていました。その後、保育に復帰し、今後自分がどう働くか迷っていた時に「ワーカーズ」を知り、みんなで運営する働き方に興味を持ちました。しばらくして、子育て支援ワーカーズ「みるきい」の立ち上げに誘われ、私も携わることにしました。雇用されるのではなく、自分たちで主体的に運営をしながら働くことに、保育園に勤めていた時とは違った充実感がありました。

2010年から北海道大学保育所「ともに」の運営が、(N) 北海道子育て支援ワーカーズに委託されたのをきっかけに、みるきいで培った経験を活かして保育所スタッフとなりました。現在は(N) 子育て支援ワーカーズ「ともに」代表、保育所長として働いています。

大家族のような温かい保育を

保育所は、広々とした大学構内の緑豊かな環境にあるので、出来るだけ外に出かけて自然を感じるようにしています。秋には、子どもたちが畑で育てた野菜で収穫祭を行ったり、子どもと家族、スタッフが220名ほど集まって運動会を開いています。

一緒に子育てをしましようという考えから、スタッフは「先生」ではなく、子どもや保護者から下の名前で「なみさん」と呼んでもらっています。ここが大家族の中で生活するような、温かく安心できる場所であってほしいと思っています。保護者から子育ての悩みを相談されることもあります。そういう時は、まず耳を傾けて気持ちに寄り添い、経験談を話したり色々な方法を提案しています。そして保護者自身がどう子育てをしたらよいか考えられるようにお手伝いすることを心掛けています。



(N) 子育て支援ワーカーズ ともに
代表 元木直美さん

「インテリア小物を集めるのが趣味です。これからは少しずつ、趣味を楽しんだり1才の孫との時間を増やしたいです」

ワーカーズだからこそ

ワーカーズの良いところは、運営についてこまめにミーティングを開いて、全員でよく話し合えることです。そして保育者も、親と共に子どもたちの成長を見守り、給食での食の安全や、良質な木のおもちゃとのふれ合いなどを大切することも、ワーカーズならではの子育て支援だと思います。現在、20代から60代の仲間と共に働いています。若いスタッフに自分の経験を伝えながら、これからも頑張っていきます。

【取材 / 綿谷・高橋】

(N) 子育て支援ワーカーズ ともに

◆設立 2012年3月
◆会員 22名
◆札幌市白石区南郷通3丁目南2-1 ☎ 011-706-2151

